

II 編集後記 II

『史観』第一七七冊をお届けいたします。本冊は、日本史一本、東洋史二本、西洋史二本、考古学一本の論文を収載することができました。いずれも力作ですので、どうぞ御味読ください。

本冊には平成二八年度卒業論文要旨、同年度卒業論文・修士論文題目も掲載されておりです。学部生・院生諸君も、近年は何かと慌ただしい社会環境のもとにあると推察しますが、そうしたなかでも力のこもった、また獨創性に富んだ卒業論文・修士論文を作成していることがうかがわれるかと思えます。

二〇一七年の夏、東京など東日本では梅雨明けした途端、梅雨のような天候が続き、八月中旬までは冷夏となりました。一方では、日本各地で大雨による甚大な被害が出たりもしました。このような自然界と同調するように、人間界も大変不安定な状況下にあるように見えます。「先の見えない」状態が、これまた先も見えず継続しているわけですが、こういうときにこそ、ものごとの因果関係を時間軸のなかでみきわめていく方法が重要になると思われれます。歴史学や考古学の役割もまただいじなものになっていくのではないのでしょうか。

なお、本冊の編集にあたっては日本史コース助教の伊東久智先生にご尽力いただいたことを申し添えます。ありがとうございました。（久保健一郎）

執筆者紹介（掲載順）

矢野美沙子	京都精華大学 人文学部特任講師
伊藤 光成	早稲田大学大学院文学研究科 修士課程
高橋 誠	早稲田大学大学院文学研究科 修士後期課程
糸 隆太	早稲田大学大学院文学研究科 修士後期課程
田中 史高	早稲田大学文学芸術院非常勤講師 早稲田大学ヨーロッパ文明史研究所 招聘研究員
山田 綾乃	早稲田大学文学芸術院 助手

平成二十九年九月十九日印刷
平成二十九年九月二十五日発行

史観

第百七十七冊
定価 一千五百円

編集者 新川 登 亀 男
印刷所 株式会社 白峰社
発行所 早稲田大学史学会

東京都新宿区戸山一―二四―一
電話東京(三二〇三)四一四一番
振替〇〇一九〇―八―一四六二九